

## マニュアル・スカベンジャーから脱却し、新たな人生を手に入れた女性 スワプナ・マジウムダール（インド）

チョーティ・バイさんは黄色い物すべてに嫌悪感を抱いています。この色を見ると、自身がマニュアル・スカベンジャー（手作業による糞尿処理人）として住宅のトイレから排泄物を素手で回収していた時の記憶がよみがえるからです。インド西部に暮らす44歳のバイさんは7年前にこの仕事を辞めてから、人生が劇的に変わりました。「乾式掘り込みトイレを清掃して過ごした22年間のことを忘れることはできません。仕事を辞めてからも、黄色い食べ物や衣服などを見るたびに、再び人の排泄物を扱っているかのような錯覚に陥るのです。」と語ります。

彼女のマニュアル・スカベンジャーとしての人生が始まったのは、結婚後間もない15歳の時でした。バイさんは幼い頃から母親や二人の姉がこの仕事をする姿を見てきました。小さいうちは2人の妹と共に学校に行っていましたが、自らの出自が伝統的にこの仕事に従事させられてきたコミュニティーにあり、いずれは家族の生業の一員になる宿命を悟っていました。「私が結婚して間もなく、義姉がマニュアル・スカベンジャーの仕事をする際に同行するよう義母に言いつけられた時、別段驚くことはありませんでした。」

インドのマニュアル・スカベンジャーたちの大半が女性です。家庭のトイレから回収した汚物を容器に入れ、頭に載せて運搬・廃棄するのですが、防護用の手袋や道具などは用いません。同じコミュニティーの男性は浄化槽や下水管の清掃に従事しています。インドには、この手作業による糞尿処理（マニュアル・スカベンジング）を禁止する法律がいくつか存在します。最も古いものは1993年に制定され、2013年に包括的な禁止を謳った「マニュアル・スカベンジャーの雇用禁止および社会復帰に関する法律」が制定されました。

しかしながら、2011年の国勢調査によると、今もなお79万世帯がマニュアル・スカベンジャーとして働いていることがわかりました。特にダリット（「不可触民」と呼ばれるカースト最下層階級）の女性たちがマニュアル・スカベンジングを生業としています。この仕事で得られる報酬は、1日にわずか60セントほどですが、大半の女性は無給でこの仕事に従事しているのが実情です。バイさんの場合は、報酬として残り物のパンなどの食料品や、小さい袋一杯分の小麦を雇い主から受け取っていたそうです。

マニュアル・スカベンジングが違法であることをバイさんが知ったのは2008年のことでした。「ラシュトリア・ガリマ・アビヤン（全国尊厳キャンペーン）」というマニュアル・スカベンジングの撲滅とその従事者の尊厳を守る全国キャンペーンを展開する組織の活動家に出会ったのがきっかけです。この組織は、国内の13の州で活動する30の市民団体から成る連盟で、最下層階級コミュニティーの人々の生活改善に取り組んでいます。数名の活動家が彼女の村を訪問し、人としての尊厳を蹂躪する仕事をする必要はないと住民に説明しました。しかし、バイさんほか村の女性たちは皆懐疑的でした。「あの人たちの言うことを信じませんでした。このコミュニティー内の全ての家族がこの仕事に従事していましたし、

この仕事以外のスキルを持たない私は、他に何をすればよいのか見当もつきませんでしたから。」

しかし、活動家たちは諦めず、彼女たちの権利について根気強く訴え続けました。組織の創設者によると、マニュアル・スカベンジャーの 95%以上が女性だそうです。彼はこう語ります、「彼女たちはカースト制による差別の被害者です。何より必要なのは、彼女たち自身の意識高揚を図ることなのです。」バイさんがマニュアル・スカベンジングの仕事を辞める決断をするまでに 8 ヶ月かかりました。畑仕事の日雇い労働者に転身し、縫製の仕事にも取り組みました。

2010 年、バイさんの決意が固いことを知った活動家たちは、自分たちと一緒に働かないかと持ちかけ、2012 年に彼女はモチベーターとしてこのキャンペーンの一員となりました。彼女にとっては月に 75 ドルというこれまでの収入とは比較にならない程の高収入が得られるようになったこと以上に、何よりも人としての尊厳を手にしたことが自信になりました。とりわけ、かつて自分を「不可触民」と見なしていた人々から敬意を払われることが自信へと繋がったのです。

それ以来、バイさんはキャンペーンの一員として、同じ地区で働いていた 112 人の女性に対して、マニュアル・スカベンジングを辞めるように説得しました。女性たちの中には支援を受けて小規模養鶏ビジネスを始めた人たちもいれば、政府による地方雇用確保政策のもとでジョブカードを取得した人たちもいます。彼女の村では、もはや女性のマニュアル・スカベンジャーは存在しません。これまで、マニュアル・スカベンジングの仕事をしていた女性 100 人がモチベーターとしてキャンペーンに加わり、16,000 人の女性がこの仕事から解放されました。

そして昨年、彼女は更なる境界を打ち破りました。マニュアル・スカベンジングを辞めた近隣の村の女性 5 人と一緒に地元の喫茶店でお茶を飲んだのです。この喫茶店は、かつて彼女たちのコミュニティーのメンバーの入店を拒否していた店でした。



チョーティ・バイさん。現在はモチベーション・リーダーを務めている。